



前を向いて

小学部副校長 平田 あや

1月22日(月)、都心では4年ぶりという大雪が降り、本校の校庭もあつという間に銀世界へと様変わりしました。翌朝、白銀の世界と化した校庭を見て、子どもたちは歓声を上げていました。手で触ったり遊んだりして、冬を体感しすることができたようです。雪により被害を受けたり、苦勞をされたりした方も多かったと思いますが、子どもたちは、大変貴重な時間を過ごすことができたと思います。

さて、そんな冬真っ盛りの中、今月9日からいよいよ平昌オリンピックが開幕しました。25日までの17日間、世界90か国以上、6千人以上の選手たちが参加する予定となっています。また、3月には9日から18日までの10日間、パラリンピックが開催され、世界45か国以上、600人以上の選手たちが参加する予定となっています。この冬季オリンピックの次が2年後の2020東京オリンピック・パラリンピックになります。それぞれの選手が、夢の実現に向けこれまでの努力の成果を発揮する姿に、感動や勇気をもたらしている人もたくさんいることでしょう。日本のメダル獲得に期待するのはもちろんのこと、参加する選手やその選手を支えている人たち、オリンピックを運営する人たちの姿にも注目して見ていきたいと思えます。

この冬、日本全国の小学校でスポーツ庁主催の東京大会マスコット投票が行われました。小学部でも学級ごとに話し合い、「オリンピック・パラリンピックの意義」や「東京らしさ」「マスコットの果たす役割」などを考え、3種類の中から1つにしぼって投票を行いました。2月末には、投票が締め切られ、選ばれたマスコットが発表されるようです。自分たちが、投票したものが採用されるのでしょうか。楽しみです。2年後、子どもたちがどのような形で東京大会に関わっているかわかりませんが、自国開催のオリンピックはとても貴重な機会です。より意識を高め東京大会を楽しめるよう、オリンピック・パラリンピック教育を進めていきます。

以前、バルセロナオリンピックの陸上日本代表選手である渡邊高博さんのお話を伺う機会がありました。特に印象に残ったのは「前を向いて」という言葉です。陸上競技では、速く走るためにはしっかりと前を向き、体重をつま先に乗せスタートを切ること、スタートを切ったらゴールを見て一步一步進んでいくこと、さらに陸上競技だけでなく、夢や目標の実現のためには下を見ず、常に前を向き前進していくことが大切であると教えてくださいました。ご自身の体験を通したお話は、とても迫力があり、夢や目標をもつことの大切さを学ばせていただきました。

今年度も残りあとわずか。小学部も中学部も1年間のまとめの時期となりました。今年度の学習や生活をきちんと締めくくり、新しい学年へ、新しい世界へ自信をもち前を向いて一歩踏み出せるよう、指導していきたいと思っております。引き続き、ご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。